

一人ひとりが自分らしく 笑顔で暮らせる まっやまをめざして

男女共同参画に関する市民意識調査報告書(ダイジェスト版)

松山市民の “意識”と“実態”

今回のアンケート調査で、固定的な性別役割分担意識は、少しずつ薄れてきつつあることがわかりました。

しかし、意識は良くなりつつあっても、実態としては、社会のあらゆる場で「男性の方が優遇されている」と感じている人は多く、性別に基づく無

意識の思い込みや偏った考え方に気付かず同調を求められることに、生きづらさを感じる現状があります。

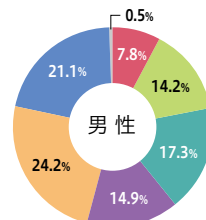
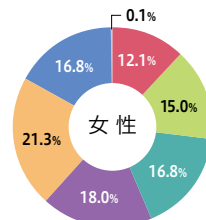
今後は、意識の変化が、家事分担や育児休業取得など実際の行動面にあらわれ、一人ひとりが自分らしく笑顔で暮らせるまちをめざします。

調査方法

- 母集団 松山市在住の20歳から79歳までの男女
- 標本数 3,000人(男女各1,500人)
- 抽出法 住民基本台帳より無作為抽出法によって抽出
- 実施時期 令和4年2月
- 調査方法 郵送による質問票の送付・回収
- 回収数 1,353人
(女性734人、男性565人、答えたくない20人、性別不明34人)
- 回収率 45.1%
(女性54.2%、男性41.8%、答えたくない1.5%、性別不明2.5%)

回答者の年代構成

20代 30代 40代 50代
60代 70代 不明



松山市男女共同参画センター・コムズ

今回の意識調査にご協力いただいた市民の皆さまから、率直なご意見を数多くいただきました。性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現をめざして、コムズでは、これからも様々な事業に取り組んでまいります。

学習・研修

情報提供

調査・研究

交流

女性相談・男性相談

ファミリーサポート・センター



※本冊子でご紹介するのは、調査結果の一部です。結果全体や詳細な分析は、「男女共同参画に関する市民意識調査報告書～2022(令和4)年調査～」をご覧ください。

(公財)松山市男女共同参画推進財団・松山市

調査の目的

(公財)松山市男女共同参画推進財団では、市民の皆さまの男女共同参画に関する意識と生活の実態を探り、今後の事業の方向性を見出し、かつ松山市が令和5年3月に策定する「第4次松山市男女共同参画基本計画」の基礎資料とするために、本調査を実施しました。

「育児・介護休業法」は令和3年6月に改正され、令和4年度から段階的に施行されます。そこで今回は、男性の育児休業取得の促進や、性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)など、新たな設問を設けました。

また、本調査はコロナ下での調査となり、結果にも、人々の生活や行動様式に影響を及ぼした様子が見られました。詳細は報告書(本編)をご覧ください。



報告書【PDF】

① 男女共同参画に関する意識

固定的性別役割分担意識 (「男だから…」「女だから…」のように、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のこと)

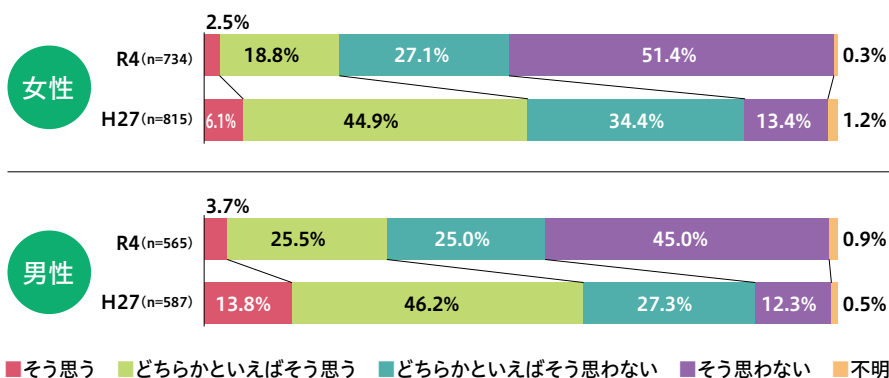
Q 「夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、前回(平成27年)調査より減少

→家庭内における固定的な性別役割分担意識は、少しずつ薄れてきつつあります。

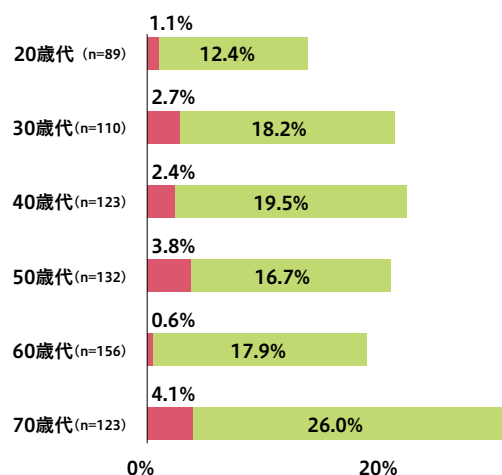


しかし…

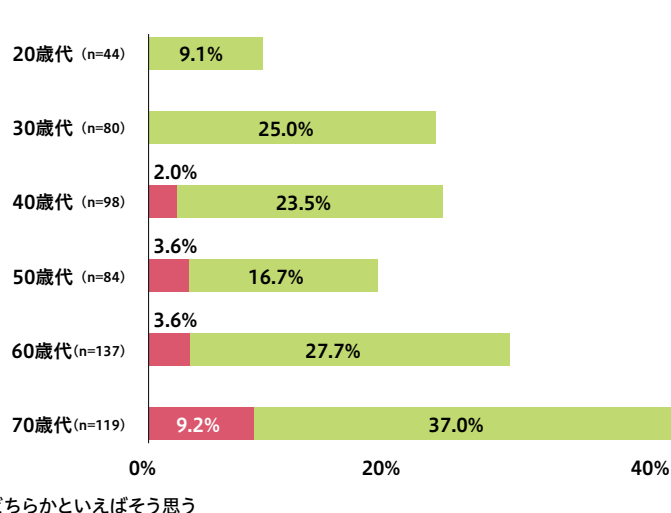


「夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい」という考え方について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を年代ごとに見ると…

女性



男性

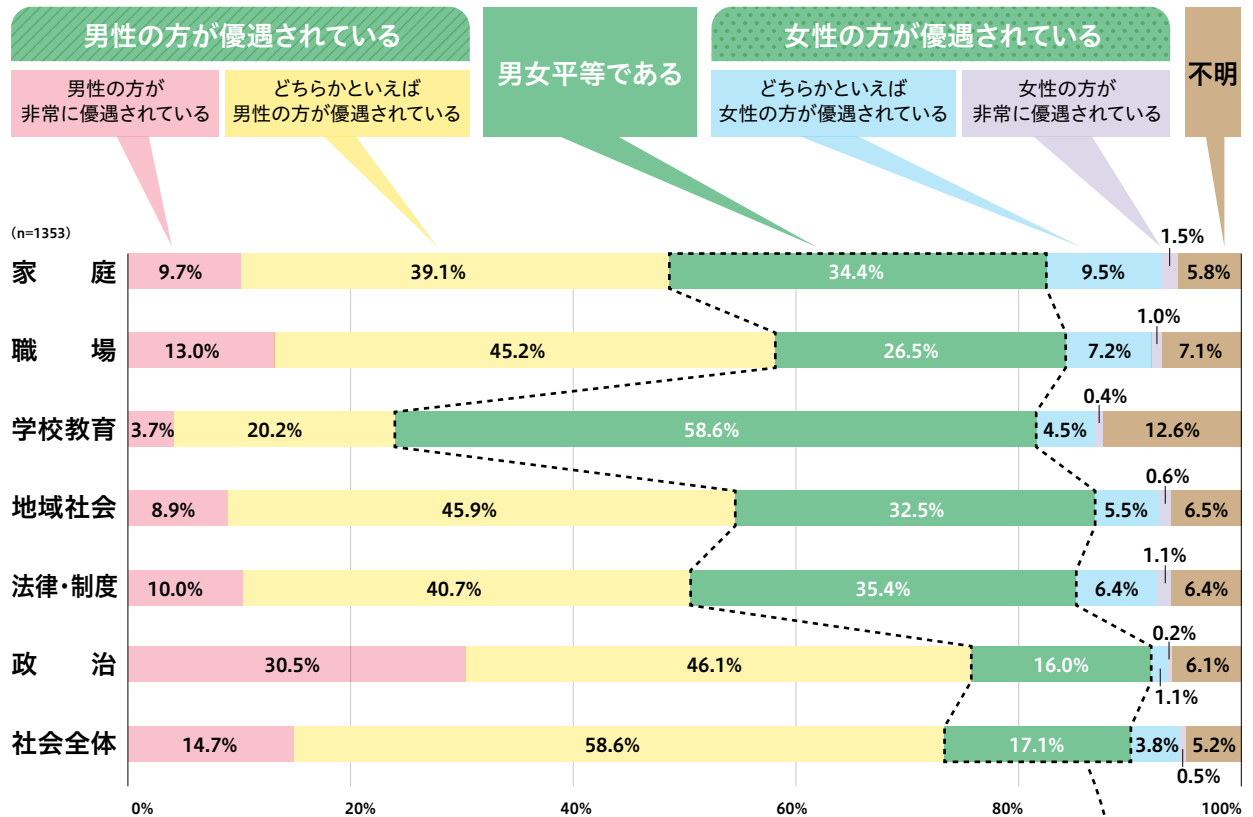


性別・年代ごとに差はありますが、**固定的な性別役割分担意識は、今なお残っていることがわかります。**

→性別・世代間によって意識の差があり、その解消が求められます。

男女の平等感

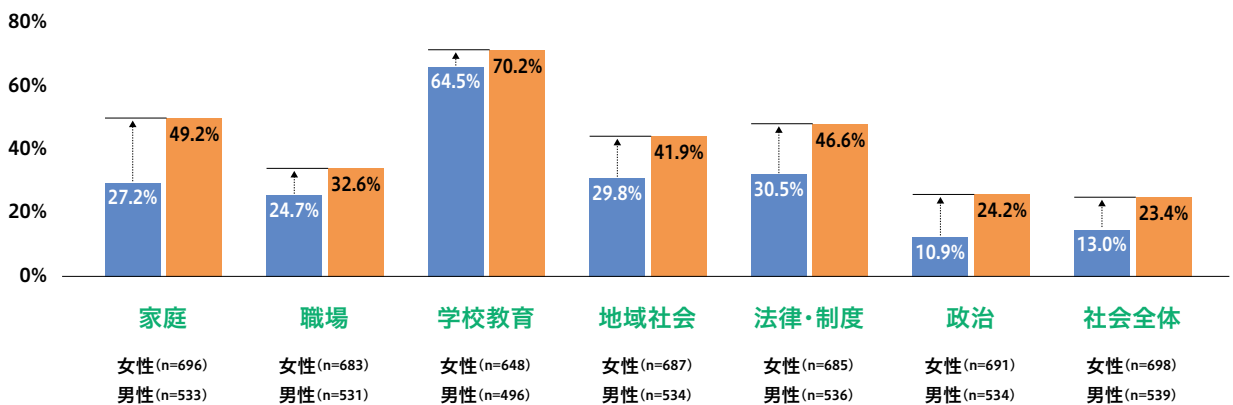
Q 次にあげる分野で、男性、女性、どちらが優遇されていると思いますか。



全ての分野において、「男性の方が優遇されている」が、「女性の方が優遇されている」を上回っています。
 ⇒ 依然として、社会のあらゆる場で、「男性の方が優遇されている」という意識は強くなっています。

もっと詳しく
見てみよう!

「男女平等である」と回答した人の割合 (不明を除く)



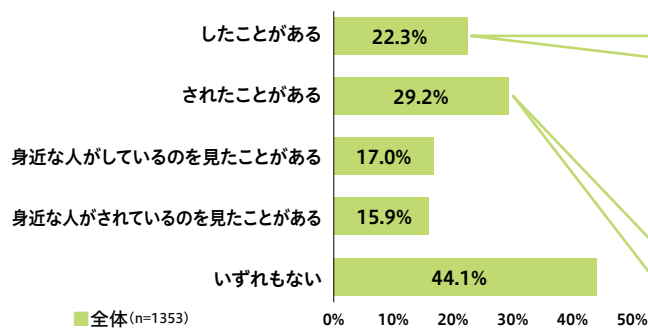
・ いずれの分野においても、女性より男性の方が「男女平等である」と回答しています。
 ・ 「家庭」「法律・制度」では、男女差が特に大きく、性別によって捉え方に差が見られます。

性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)

無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)とは

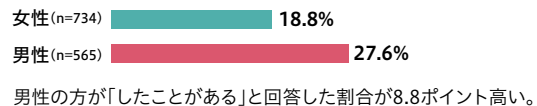
誰もが潜在的に持っている思い込みのことです。育つ環境、所属する集団の中で無意識のうちに脳にぎざみこまれ、既成概念、固定観念となっていきます。
(内閣府「第5次男女共同参画基本計画 用語解説」より)

Q 「男性だから」「女性だから」という、性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方(性別役割分担意識も含む)をしたり、他人からされたりしたことはありますか。

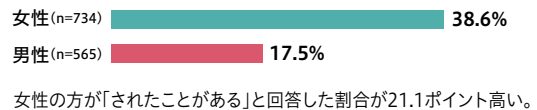


「いずれもない」が44.1%と最も割合が高くなっており、「思い込みや偏った考え方をしている」と自分自身では認識していない人もいると思われます。

したことがある

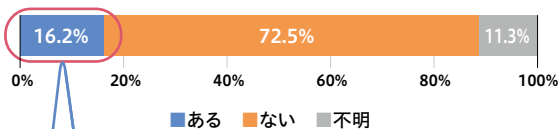


されたことがある



Q これまでの人生で、性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりしたことはありますか。

女性 (n=734)



体験したアンコンシャス・バイアス

アンケートの自由記述より

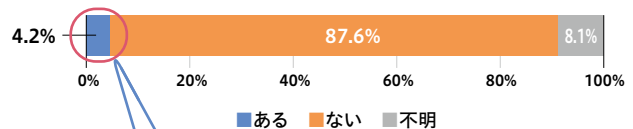
- ・女の子はどうせ結婚したら働かなくなるんだから、そんなことにお金は使えないのよと、進学を断念したことがある(30歳代女性)
- ・女性だから転職したくないんだらうと勝手に決めつけられ昇進がない(30歳代女性)
- ・子育てに関する事は手続等含め母親がするものだと言い、子どもの体調不良の時なども仕事を休む、看病など全て母親(40歳代女性)
- ・育児休業明け復帰直後、フルタイムで働いていた時、男性上司に「そんなに頑張らなくてよい」と言われショックだった(40歳代女性)
- ・意見を言うとう「女のくせにえらそうに…」と言われ、言いたいことも言わせてもらえなかった(50歳代女性)
- ・専業主婦だったので常に夫から言葉では表せない位つらい経験をしました(70歳代女性)

◎女性は、結婚、妊娠・出産、家事、育児、介護、進学、就職や就職活動といったライフイベント※において、様々な制約を受ける様子が見られました。

◎女性は、親や夫、上司などから「女性」や「母親」としての役割を求められたり、行動を制限されたりして、生きづらさを感じています。

※ライフイベント……人生で起こりうる出来事

男性 (n=565)



体験したアンコンシャス・バイアス

アンケートの自由記述より

- ・長男だから家を守れと県外に出してくれない傾向があった(30歳代男性)
- ・育児休業の取りにくさ(30歳代男性)
- ・男性だから遠方に仕事に行かされた(40歳代男性)
- ・息子に「男の子だから泣いてはだめ」「男の子だから女の子に優しくしないとだめ」等の言葉を言っています(40歳代男性)
- ・男らしさという考えがしんどい時がある(40歳代男性)
- ・レディースデーはあるが男性にはない(40歳代男性)
- ・DV支援で女性を優先されて、男性はほっておかれた(50歳代男性)

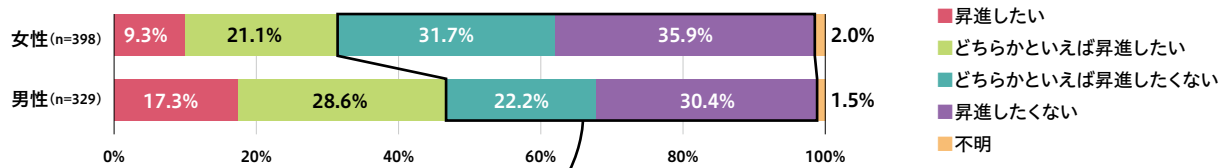
◎男性は、仕事上の負担やプレッシャー、長男として求められる役割、「男らしさ」という固定観念に息苦しさを感じている様子が見られました。

この設問で「ある」と回答した男性は4.2%、女性は16.2%と12ポイント高く、女性の方が性差による制約や生きづらさを感じているといえます。

② 方針決定過程への女性の参画拡大

職場

Q あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。(回答の対象:正規雇用及び非正規雇用)

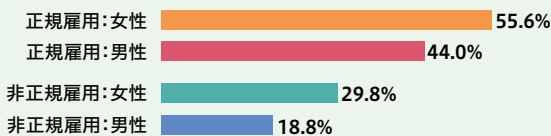


Q 昇進したくない理由は何ですか。

■ 正規雇用:女性 (n=108) ■ 正規雇用:男性 (n=125) ■ 非正規雇用:女性 (n=161) ■ 非正規雇用:男性 (n=48) ※正規雇用…正社員・正職員 ※非正規雇用…非正社員・非正職員

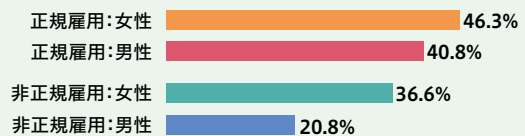
▶「職場での責任が重くなるから」を選択した人の割合は…

20～50歳代までの世代にほぼ共通して見られたが、正規雇用の方が割合が高い。



▶「勤務時間や仕事量が増えるから」を選択した人の割合は…

20～50歳代までの世代にほぼ共通し男女ともに、特に正規雇用の方が割合が高い。



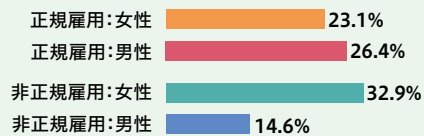
▶「体力面、健康上の理由から」を選択した人の割合は…

男女とも正規雇用より非正規雇用の方が割合が高い。



▶「現在の仕事内容に満足しているから」を選択した人の割合は…

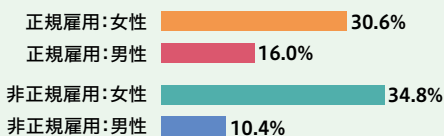
非正規雇用の女性の割合が最も高い。



▶「家庭の事情から(家庭的責任との両立ができない、など)」を選択した人の割合は…

・雇用形態にかかわらず男性よりも女性の方が割合が2倍以上高くなっている。
・非正規雇用の女性の割合が最も高い。

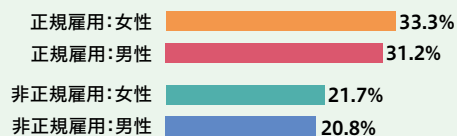
→男性より女性の方が「家庭の事情から」を選択した割合が高いのは、「男性は外で働き、女性が家庭の仕事を請け負う」という**固定的性別役割分担意識が影響を及ぼしている**可能性があります。



▶「能力的に向いていないと思うから」を選択した人の割合は…

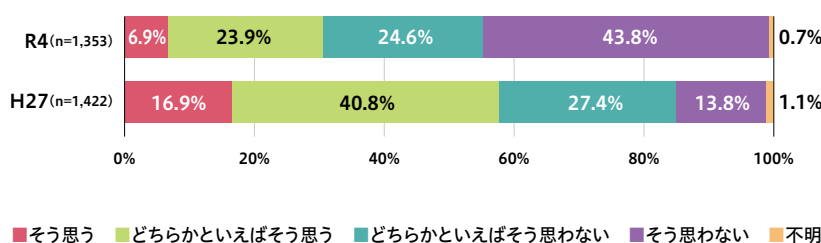
雇用形態にかかわらず、男女の回答割合に差はほとんどみられません。

→今なお女性の管理職の割合は低いままであるため、環境さえ整えば、自分の能力を今以上に発揮できそうだと考える女性は、少なからずいるものと考えられます。



地域

Q 「地域のリーダーは男性の方が向いている」という考え方について、あなたはどのように思いますか。



平成27年の調査結果と比較すると、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と肯定する者の割合が減少

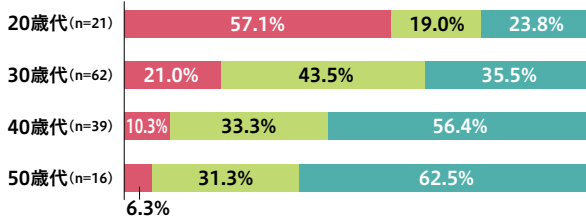
→男女ともに、**地域における固定的な性別役割分担意識が薄れている**ことがうかがえます。

③ 育児休業の取得促進に向けて

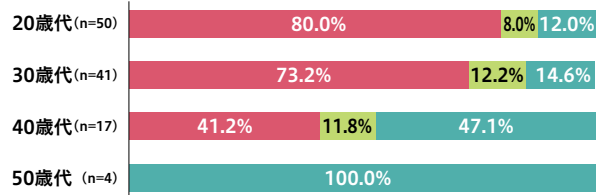
男性の育児休業取得について

Q あなたは、育児休業を今後取得したいと思いますか。

▶ 20～50歳代男性【雇用者のみ】



▶ 20～50歳代女性【雇用者のみ】



▶ 取得しようと思っている人の割合は…?

女性は、20歳代で80.0%、30代で73.2%が「取得しようと思っている」と回答しています。一方、男性は「取得しようと思っている」割合は20歳代で57.1%であり、30歳代では21.0%と大幅に下がる結果となりました。

▶ 男性の育児休業の取得率は13.97%と低いまです

「令和3年度雇用均等基本調査」(厚生労働省)によると、全国の育児休業取得率は、男性13.97%、女性89.7%です。

▶ 育児休業を「取得したくてもできない」人がいる!?

「取得しようと思っている」「取得したいができない」を合わせると、20・30歳代男性の半数以上、40歳代でも4割以上が育児休業取得に前向きな回答を寄せているともいえます。

しかし、男性の「取得したいができない」と答えた人の割合が高くなっている点に注目すると、30歳代男性は43.5%で、最も高くなっています。

*取得したくてもできない理由については、下の図のとおりです。

→男性の育休取得に関する認識・意識は浸透しつつあるものの、実際の取得率は女性と比べ、かなり低いまです。

職場・行政に対する取り組みの必要性

Q 育児休業を取得したくてもできない・取得しようとは思わない理由は…?

▶ 原因は職場の環境にある!?

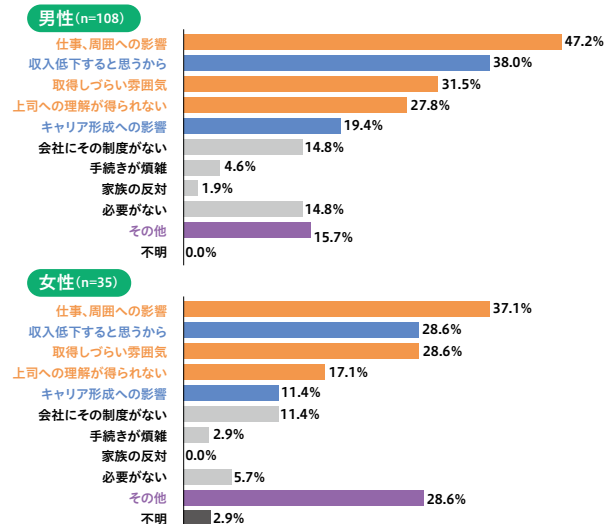
「仕事、周囲への影響」「取得しづらい雰囲気」「上司の理解が得られない」といった、職場環境が育児休業の取得を困難にしていることがわかります。

→育児休業法が改正され、制度の充実が進められていますが、今後もますます男性の育児休業取得率の向上に向けて取り組んでいくことが求められています。

▶ 現実的な不利益を被ることが心配で育休が取れない!?

「収入低下」「キャリア形成への遅れ」といった、取得によって現実的な不利益を被る心配があることがわかりました。

→育児休業取得による不利益が生じない仕組みをつくるなど、職場・行政に対して、不利益への不安解消の取り組みが求められています。



～「その他」と回答した人のリアルな声～

【専業主婦】

- ・家族が転勤族であり、正社員であること自体が難しいから(20歳代女性)
- ・働いていた会社に産休、育休がなかったため退職した(30歳代女性)

【非正規雇用】

- ・そもそも前例がない(30歳代性別不明)
- ・非正規はとれないでしょ?(30歳代女性)

【正規雇用】

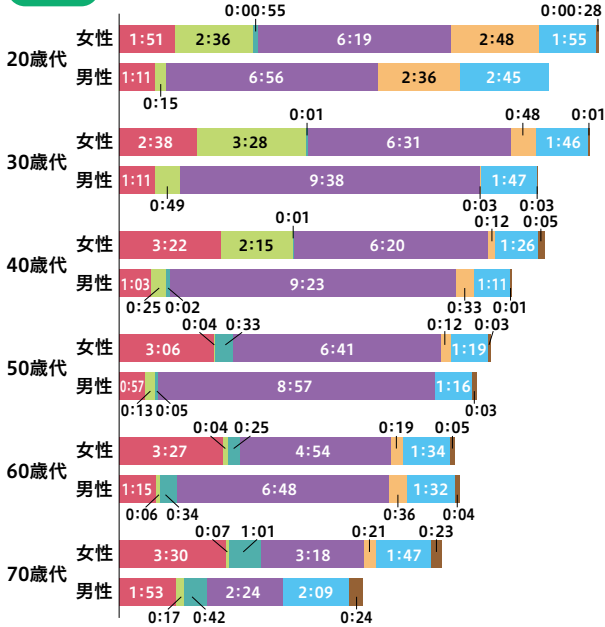
- ・今2人子どもがいて3人目が欲しいがすでに育児休暇を2人分使ったのでこれ以上休むのは気が引ける。周りに申し訳ないのと自分の立場が悪くなるような気がするから(30歳代女性)
- ・取得した結果、短期だと穴埋めするために仕事が忙しくなり、長期の場合は仕事の勤を取り戻すのに多大な労力が必要で、結局取得した方が家族の負担が増える(30歳代男性)

4 ワーク・ライフ・バランス

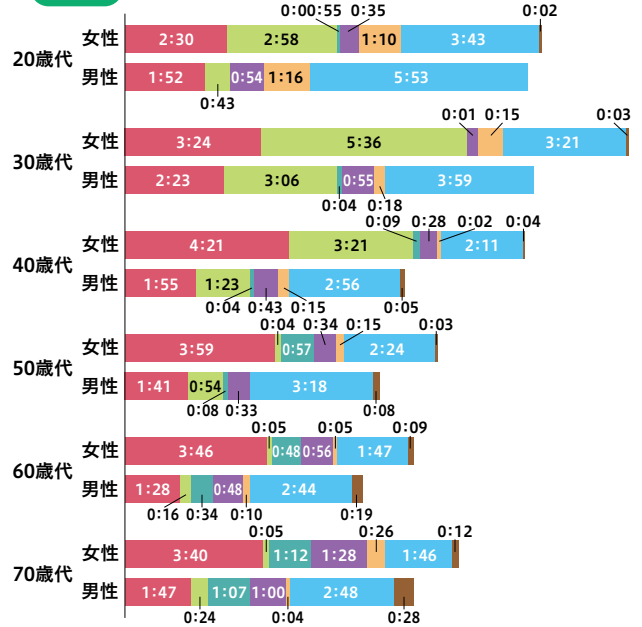
1日の時間の使い方

Q 1週間を振り返り、あなたの1日あたりの平均的な時間の使い方を教えてください。表記の数字は「時間:分」(例)2:30=2時間30分

平日



休日



■ A 家事 ■ B 育児 ■ C 介護 ■ D 就労 ■ E 学業 ■ F 趣味 ■ G 地域活動

- ・30歳代以降の全ての年代で、女性のほうが男性より約2時間長く家事・育児を行っています。
- ・特に30歳代女性は、育児時間が最も長く、休日には5時間を越えています。

- ・男性は、30歳代～50歳代の就労時間が、平日の一日合計活動時間の70%を越えており、長時間となっています。
- ・就労時間が最も長いのは30代男性で、9時間38分に達しています。

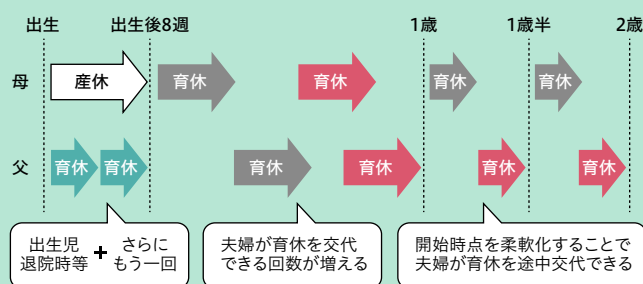
知っていますか？

令和4年10月スタート産後パパ育休とは

「育児・介護休業法」が改正され、令和4年4月から、順次施行されています。そして、令和4年10月には「産後パパ育休」(出生時育児休業)が創設され、特に子どもの出生直後に男性が育児休業を取得しやすくなるとともに、時期や回数などについて、より柔軟に対応できるようになりました。

育児休業取得のイメージ(例)

(厚生労働省ホームページから)



産後パパ育休

子の出生後8週間以内に4週間(28日)まで、2回に分割して取得可能です。

育児休業法の改正でできるようになった取得方法

1歳までの育児休業について、2回まで分割して取得可能。保育所に入所できないなど特別な理由がある場合の育児休業の延長について、休業開始日が柔軟化され、夫婦が交代して育児休業を取得できるようになりました。

もっと詳しく見てみよう！

男女の時間の差で見る 平日の家事・育児・就労時間

女性は【家事・育児時間】が長く、
男性は【就労時間】が長くなっています。

女性の時間の方が長い
【女性の時間-男性の時間=〇分】

男性の時間の方が長い
【男性の時間-女性の時間=〇分】

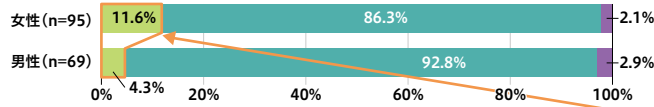
項目	20代	30代	40代	50代
家事時間(分)	40	87	139	129
育児時間(分)	141	159	110	9
就労時間(分)	37	187	183	136

5 DV(ドメスティックバイオレンス)

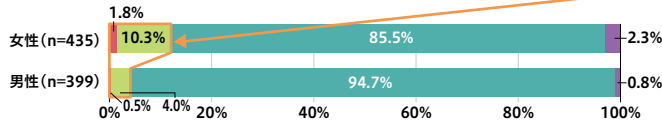
Q あなたは、これまでに 配偶者または交際相手から、何らかの形でDVを受けたことがありますか。

■ 現在受けている ■ これまでに受けたことがある ■ 受けたことはない ■ 不明

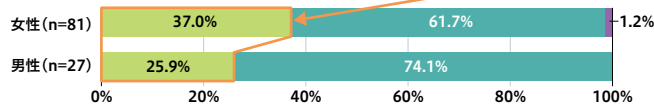
▶ 未婚で、交際相手はいる(いた)方の回答は…



▶ 既婚の方の回答は…



▶ 離別した方の回答は…



「現在受けている」または「これまでに受けたことがある」と回答した人は、

- ・未婚で交際経験がある女性: 11.6%
- ・未婚で交際経験がある男性: 4.3%
- ・既婚の女性: 12.1%
- ・既婚の男性: 4.5%

▶ 未婚で交際経験がある人も、DVの経験率は婚姻中の人とほぼ同じでした。

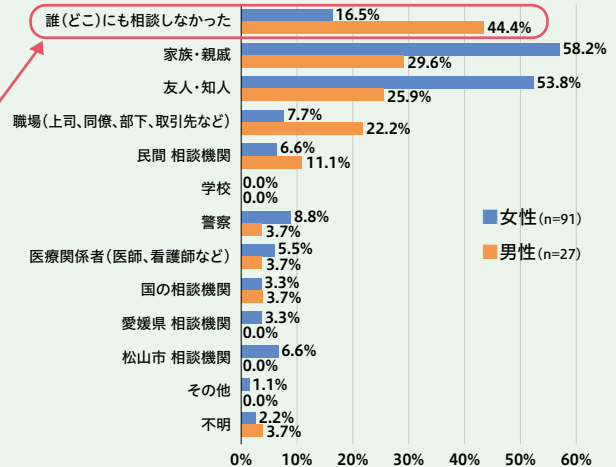
離婚経験者は、「これまでに受けたことがある」と回答した割合が高いことがわかります。

特に、女性は37.0%と、男性より経験率が11ポイント高くなっています。

しかし…

Q そのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

女性16.5%、男性44.4%が「誰(どこ)にも相談しなかった」と回答しています。
 「相談しても無駄」「恥ずかしい」「他人を巻き込みたくない」「我慢できると思ったから」といった意見が見られました。



コムズ相談室を利用してみませんか?
 安心して、お気軽にお話してください。

気持ちが整理できて
スッキリできた

悩んでいるのは
自分だけではないと
思えて安心した

コムズ相談室 無料 秘密は厳守します

女性相談

089-943-5770

- 電話相談
- 面接相談(要予約)
- 託児付き面接相談(要予約)
- メール相談



女性相談

託児付き
面接相談

メール
相談フォーム

男性相談

089-943-5777

- 電話相談(要予約)
- 面接相談(要予約)



男性相談

コムズ相談室では一人一人のお気持ちをありのまま受け止め、ご自分の足でまた一歩を踏み出せるよう、一緒に考えていくお手伝いをしています。

「交際相手やパートナーからの暴力(DV)」「夫婦のコミュニケーション」「人間関係」「子どもとの関係」「介護疲れ」「職場での悩み」など、一人で抱えずお話していませんか?お電話お待ちしております。

松山市男女共同参画推進センター・コムズ

- 所在地 〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目4-20
- 開館時間 火～土 9時～21時/日・祝日 9時～17時半
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日
- TEL 089-943-5776 ● FAX 089-943-0460
- E-mail coms@coms.or.jp



HP



メルマガ会員登録



Facebook



Twitter



Instagram



LINE